

参 考 文 献

内閣府 防災情報のページ：

災害に係る住家の被害認定の概要：<http://www.bousai.go.jp/hou/pdf/gaiyou.pdf>

国土地理院ホームページ：

平成 17 年(2005 年) 福岡県西方沖地震の震源断層モデルの概念図：

<http://www.gsi.go.jp/common/000040252.jpg>

能登半島地震の震源断層モデルの概念図：

<http://www.gsi.go.jp/common/000037244.pdf>

平成 19 年(2007 年) 新潟県中越沖地震の震源断層モデルの概念図：

<http://www.gsi.go.jp/common/000037099.pdf>

アンケート調査会社ホームページ：

株式会社インテージ・インタラクティブ：<http://www.intage-interactive.co.jp/>

建設省建築研究所(1996) 平成7年兵庫県南部地震被害調査最終報告書，第 I 編中間報告書以降の調査分析結果，1996.

防災科学技術研究所(2005) 大都市大震災軽減化特別プロジェクト・Ⅲ.2大都市特性を反映する先端的な災害シミュレーションの技術の開発（平成16年度）成果報告書，2005.5

日本建築学会(2000) 非構造部材の耐震設計施工指針・同解説および耐震設計施工要領，2003.

損害保険料率算定会(1998) 地震時の家財被害予測に関する研究，地震保険調査研究46，1998.10

損害保険料率算出機構(2007) 家財の地震被害予測手法に関する研究（その1），家財の所有・設置状況に関する調査，地震保険研究13，2007.11

損害保険料率算出機構(2008) 日本の地震保険，2008.4

藤本一雄・翠川三郎(2006) 近接観測点ペアの強震記録に基づく地盤増幅度と地盤の平均 S 波速度の関係，日本地震工学会論文集，第6巻，第1号，pp.11-22，2006年.

藤本一雄・翠川三郎(2005) 近年の強震記録に基づく地震動強さ指標による計測震度推定法，地域安全学会論文集，No.7，pp.1-6，2005.11

赤城立也・河合直人・橋本敏男・五十田博・伊藤嘉則・大木洋一郎・笠井一徳・佐野郁夫(2006) 実大木造住宅の振動台実験手法に関する研究 その17 実験結果，日本建築学会大会学術講演梗概集，pp.417-418，2006.9

井川望・藤井睦・伊藤真二・黒木安男・太田崇士(2003) 高層建物・免震建物における地震・風観測とその評価，鴻池組技術研究報告，Vol.13，pp.71-76，2003.

井上貴仁・境茂樹(1992) 杭支持された高層集合住宅の地震観測（その2）地震観測記録

- 例, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 623-624, 1992. 8
- 大木洋一郎・河合直人・笠井一徳・佐野郁夫・橋本敏男・五十田博・伊藤嘉則・赤城立也(2006) 実大木造住宅の振動台実験手法に関する研究 その16 木質接着複合パネルを用いた軸組構法 実験概要, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 415-416, 2006. 9
- 岡田成幸(1989) 地震に伴う室内環境変容と人的被害の発生危険性との関係—1987年千葉県東方沖地震の高層建物の震度調査にもとづく—, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 679-680, 1989. 10
- 表俊一郎・楢橋秀衛(1979) アンケートによる建物階別震度の決定と大地震時の人間心理・行動の調査・解析(その1)(その2), 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 459-462, 1979. 9
- 金子美香・田村和夫(2000) 大地震時における家具の転倒被害の分析, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 139-140, 2000. 9
- 木村匡・飯場正紀・梅村美孝・井上芳生(2007) 集合住宅建物の地震観測とシミュレーション解析 その1 建物・地盤条件及び地震観測結果, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 141-142, 2007. 8
- 栗本修・岩本賢治・飯場正紀・梅村美孝(2007) 集合住宅建物の地震観測とシミュレーション解析 その2 シミュレーション解析結果, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 143-144, 2007. 8
- 沢井布兆・藤井睦・横山浩明・松谷輝雄・石田潤一郎・小堀隆治(1995) 兵庫県南部地震における高見フローラル超高層 RC 造集合住宅の検証 (2)地震観測の概要および観測記録 I, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 431-432, 1995. 8
- 司宏俊・翠川三郎(1999) 断層タイプ及び地盤条件を考慮した最大加速度・最大速度の距離減衰式, 日本建築学会構造系論文集, 第523号, pp. 63-70, 1999. 9
- 田村和夫・中村豊・金子美香・神原浩(2005) 高層建物内の地震時安全性評価技術の開発(その1)全体概要と建物の簡易応答評価手法, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 2005. 9
- 佃総一郎・土肥博・炭村晃平・柳井正・長江健治(2006) 宮城県沖の地震における建物の地震時応答(その1 強震観測記録の分析), 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 7-8, 2006. 9
- 花野克哉・守屋嘉晃・橋本敏雄・秋山高規・川上修・宮澤健二・室星啓和(2006) 実大木造住宅の振動台実験手法に関する研究 その19 WG3 実験概要, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 421-422, 2006. 9
- 原田浩之・井上芳生・長岡徹・谷垣正治・山岸邦彰(2006) 2005年7月23日に発生した千葉県北西部の地震における23階建超高層建築物の地震観測結果, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 147-148, 2006. 9
- 藤原賢也・岩橋平和・吉村昌宏(2005) インターネット上で提供される強震観測記録を活

- 用した地震動分布の推定, 地域安全学会論文集 No. 7, 2005. 11, p231-240
- 星信(2006) 実大振動実験と構法 ユニット式枠組壁工法, 建築技術, Vol. 675, pp. 136-139, 2006. 4
- 松岡昌志・若松加寿江・藤本一雄・翠川三郎(2005) “日本全国地形・地盤分類メッシュマップを利用した地盤の平均S波速度分布の推定”, 土木学会論文集, No. 794/I-72, pp. 239-251, 2005.
- 宮腰淳一・神原 浩・石井大吾・田村和夫・山口 亮・名取晶子・吉村昌宏 (2005) 建物耐力と変形性能のばらつきを考慮した被害関数の作成手法, 構造工学論文集, 日本建築学会, Vol. 51-B, pp105-110, 2005. 3
- 守屋嘉晃・花野克哉・橋本敏雄・秋山高規・川上修・宮澤健二・室星啓和(2006) 実大木造住宅の振動台実験手法に関する研究 その 20 WG3 実験結果日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 423-424, 2006. 9
- 綿引誠・町田健一・大橋好光・坂本功(2006) 実物大建物振動台実験に基づく木造軸組工法住宅の耐震性能に関する研究, 日本建築学会構造系論文集, 第 599 号, pp. 103-110, 2006. 1
- Kazue Wakamatsu and Masashi Matsuoka(2006) Development of the 7.5-Arc-Second Engineering Geomorphologic Classification Database and its Application to Seismic Microzoning”, Bulletin of Earthquake Research Institute, The University of Tokyo, Vol. 81, pp. 317-324, 2006.
- Yasuhiro Hayashi, Jun'ichi Miyakoshi and Kazuo Tamura(1998) Evaluation of Ground Motion Intensity during the Hyogo-ken Nanbu Earthquake of 1995, Shimizu Tech Res. Bull., No. 17, pp. 9-22, March 1998.
- Shinzaburo Ozawa, Makoto Murakami, Satoshi Fujiwara and Mikio Tobita(1995) Synthetic Aperture Radar Interferogram of the 1995 Kobe Earthquake and its Geodetic Inversion, , Vol. 24, No. 18, pp. 2327-2330, September 1997.

